

令和2年度第4回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和3年3月17日（金）
◎開催日時 令和3年3月25日（木） 午後3時30分～午後5時
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原職務代理者、田畑委員、原田委員、黒河内委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 馬場教育次長、福澤学校教育課長、北林生涯学習課長、早川企画調整幹、北澤指導主事、小松指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

教育次長

定刻となりましたので、ただいまから今年度第4回目の総合教育会議を開催してまいります。始めに白鳥市長からご挨拶をお願いいたします。

2 市長あいさつ

市長

先週には2年ぶりの春の高校駅伝があり、全国から感動したという連絡をいただきました。コロナはいつも私達の近くにある中で、雨の中を高校生が懸命に走っている姿に私も感動を持って見させていただきました。

駅伝が終わって桜の時期シーズンになります。コロナにつきましても、徐々に日常が戻りつつありますが、まだまだ心配の種は尽きないように思います。コロナによって見えてきたものがたくさんあります。コロナが終息して、徐々に日常が戻る中で、見えてきたものがどこか行ってしまうことがないように気を付けながら、また目を配りながら、貧困、子どもの学習環境、そうしたことに皆さんのお力をお借りしたいと思います。

今日いくつか議題ありますけれども、委員の皆さんの活発な意見をお願い申し上げます。

教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

今、市長が触れられとおり、この1年、新型コロナウイルス感染症の影響が大変多かった中で、市内の学校等でその感染の広がり等なく、子どもたちが心身を大きく痛めることなく、年度末までできました。本当に市、また市民の皆さんのご理解ご支援をいただいたおかげと思っています。

一方で、家庭の経済的な状況の変化は、これから子どもたちに具体的に現れてくるような面があると思います。学校、また関係機関等の繋がりの中で、子ども1人をしっかり見ていくことも大事になってきます。どうぞよろしくをお願いします。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。

ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) コロナ禍における小中学校の行事について

市長

それでは協議事項に入ります。最初にコロナ禍における小中学校の行事についてお願いします。今までの修学旅行について、定番の奈良・京都で実施できなかったということです。よく考えてみれば、どうして奈良・京都なのかという意見もあります。身近な事を知っている方がいいという話もあり、根本から見直すのには良い機会だったと思います。

最初に、学校行事について、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 コロナ禍における小中学校の行事説明

市長

こういう状況で、また元に戻るという事ですね。

学校教育課長

現時点におきまして、この調査結果では例年の方向に戻りつつあるということになります。

市長

小学校4年生の遠足的行事については、多くの学校で県庁の見学とありますが、どういう意味があるのですか。

教育長

知事室、議場、危機管理室の訪問があります。全県的な大きいそのシステムに触れながら、防災等について勉強します。信濃毎日新聞社が隣接していますので、その見学が組み合わされています。

市長

危機管理は実際災害があれば伊那市で対応しますので、身近なところをもっと勉強した方が現実的だと思います。県庁は直接、住民と話をする場所ではないので、むしろ4年生だったら、伊那市の勉強をした方が現実的だと思います。そんなような視点でどうですか。皆さんから意見を出してももらえればと思います。

教育委員

これらは学校の歴史が積み上げてきたもので、旅行代理店とプログラムを検討し、精査して作り上げてきたものを踏襲してきたことだと思います。より経済的な発展がある中で、観点や歴史の原点、モノの考え方、ニーズが大きく揺らいでおり、例えば県の防災の関係を見るよりは、伊那市の消防署を見たり、地域の消防団活動はどうか考えたりするなど、社会的な課題を考えられるプログラムを作れば、それは一つ大きな学びの場になると思います。

今、コロナに左右される中で、腹案を持ちながらやるときに、その腹案として学校主体で練ってもらうことにエネルギーかけていただくことが大事かと思います。

市長

去年、富山県の高校生たちが、伊那市が取り組んでいる新産業技術を発表勉強したいということで喜んで案内しましたが、地元からはそういう話は一切ありません。中学生2年生ではキャリ

ア教育をやるけれども、その下の小学校の段階では全く見えてきません。他にどうでしょうかね。

教育長職務代理者

学校現場で固定的にやってきたことが見えてきたかなと思います。それぞれに価値があって、目的を持っていたけれども、小中一貫してどういう学びを深めていくのかという視点に立って、もう一度、見返してみる必要があると思います。

例えば、行政のあり方であれば、まず地元だと思います。自分を見つめる、それから広がっていく世界を作っていくことが大事だと思います。そういう意味では、まず伊那市に目を向ける時期があって、それがさらに発展した時に県庁があり、東京があるわけですが、本当に行く必要があるのかどうかということだと思います。

今回、中学生の修学旅行は、県内がかなり多かったです。県内に目を向けたい、もちろん伊那市も目を向けていただきたいのですが、私達からすると、例えば木曽路であったり、諏訪の機械のことであったり、東信であったり、安曇野もそうです。そういうところに目を向けながら広く学んでいく形が一つ大事ではないかなと思います。

40年ほど前に勤務した中学校では、1年生は木曽、2年生は東信を回り、3年生は奈良・京都、これは歴史で筋をつかむためですが、そういう形の中で自分のテーマを持って学んでいくことを経験しました。

教育会でも行事関係の委員会がありますが、今あるものをどうするか、しおりをどうするかというところにウェイトがあり、今の視点がないかと思います。それを改めて見返していくことも大事かなと思います。

市長

私は東信に行く機会が全くありませんでした。市長会もあると思いますが、わざわざ行く所は無いと思っていました。お聞きして、上田城もあるし、お寺もある。そういうところに行くのも一つかなと思います。

教育長

今年は、県内で修学旅行ということで、今までに無かった形を作り出す学校が多くあります。小学校4年生の長野見学は、伊那の場合、時間を調整できなくて県立歴史博物館に寄れていません。博物館には森將軍塚古墳があります。今回、小学校が組んだスケジュールでは、新しく県内のそういう所を組み込んだところもあり、次年度以降、この取組を生かしていきましょうということで、校長会でも話をしているところです。

実際のところ、それぞれの年度で担当が変わるとか、その数年前からスケジュールに近いものを練り上げられているところがあります。子どもを真ん中に置きながら考えて行こうということは、今年、学校が一番大事に受け止めたところであり、次年度以降の取り組みにも反映して欲しいと思っています。

市長

校長会でも話をさせていただければと思います。子どもたちには伊那で暮らして欲しいと思い、取り組んでいます。学年ごとに子どもたちに伝わるようなことは難しいですか。

教育長

それぞれの小学校では、例えば消防署や清掃センターに行くなど、そういうことは本当に丁寧に対応いただいております、ありがたいと思います。

市長

その他どうでしょうか。

教育委員

これまでの奈良、京都、東京、臨海学習について、それぞれどのような理由、経緯、事情があるかわからずに申し上げますと、行き先として、その子どもに触れさせたい経験として思うのは異文化との体験もあると思います。

伊那市は山に囲まれていて、あまり人の出入りもなく、外国人が来ることもないけれども、例えば、都会の子どもたちは、小学生のうちから学校に外国人がいたりするので、そういうところで刺激を受けています。そういう体験は伊那市の子どもにはできないし、少ないので、何年生でもいいと思うし、中学生でもよいと思いますし、もちろん海外に行くことはできませんが、東京にもチャイナタウン、中華街があり、新大久保に行けば韓国人街がある、たくさん海外の人たちがいるところに行ってみるといった経験は、これからは非常に重要だと思います。

外に出ないと得られない体験なので、修学旅行のようなものにふさわしい行き先の一つとして考えてもいいと思います。

教育長職務代理者

個人的な思いも含めてですが、中学2年生の皆さんの登山を、各学校で予定しているということで大変良いなと思います。

子どもの体力に合わせてロープウェイを使うことがあっても良いと思いますが、山は自分の足で登って、自分の足で降りてくる。そこまでして本当に良い山を味わえると常々思っています。コロナが収束した後は、ぜひそういった形での登山を子どもたちに経験させてあげられるようにしたいという思いがあります。登山は、本当に、この地域でなければできないことであると思います。

市長

県内の学校では縮小傾向にあり、止めていくという状況があります。長野県は130年以上前からやっている行事であり、今後も継続すべきという皆さんがいて、私にも声がかかり、その会議に入っています。

闇雲に登らせるということではなく、心配なところを洗い出して、手当して、課題を解決して登らせる方が良いという意見であり、これからもそういう議論は進むと思います。

例えば子どもによって体力が違うから、参加しない人もいっぱいいますよとか、安全を考えてロープウェイで登って降りてくるというけれども、本当にそうなのか、先生方にも経験者が少なくなっているなど、様々なことがあると思います。

これも校長会と話をし、学校登山について心配される課題を整理して、解決した上で、登山に行くことが安心かなと思います。

仙丈ヶ岳は3000mありながら、気軽に登れる山であり他にないので仙丈ヶ岳に登って泊まることも良いし、医師がついて安心できることもあります。和式トイレを使えない人が増えていますが、これは非常に危険なことで、災害時にそんなこと言っている場合ではないです。そういう非日常のところでいろんな体験をしておくことも大事だと思います。学校登山については、また、具体的に話をしたいと思います。

指導主事

身近な消防署については3年生が行っており丁寧に対応いただいています。

少し長い間バスに乗ったり、買い物させたりしたいという教員や保護者の意向があつて、そ

ういう方向に行くのだろうと思います。

今回のことを踏まえて、来年以降どうするかというようにそれぞれの学校で考えています。親も奈良・京都へ行っています。過日もバスガイドたちが映像を撮ってきてくれて、春富中と高遠中では、入試が終わった次の日に、映像を見ながらの修学旅行として上映してくれることもありました。また校長会でもお話していただきながら問題提起していただければと思います。

市長

一貫した繋がりのある目的が見えてくれば、それが一番いいのかなと思います。そのあたりを踏まえて、また話をさせていただきたいと思います。

(2) 子ども食堂について

市長

続きまして、次に子ども食堂をテーマとしてお願いします。

子ども食堂の実施母体はいくつかありますが、例えば食材がありません、この食材をどうするのか考えた時に、それぞれ調達をしているかもしれません。要するに子どもたちのためになるような子ども食堂の安定した運営、そうしたものを明確にしていくために、ご意見をいただきたいということでテーマを挙げました。

最初に事務局から説明をお願いします。

学校教育課長、伊那社会福祉協議会 担当者 子ども食堂の状況について説明

市長

子どもの居場所について、食事を出しているところもあれば、出していないところもあるという事でよいですか。

伊那市社会福祉協議会

8団体のうち6団体は食事と一緒に出しています。残りの2団体は食事ではなく、おやつを出している状況です。

市長

作業所のふれあい食堂を加えると9団体という事で、それは社協の事務所の中にあるということでよいですか。

伊那市社会福祉協議会

ふれあい食堂は社協の中にあります。

市長

送迎が無いと、社協までは来られないですね。

伊那市社会福祉協議会

基本的にはご家族の送迎をお願いしています。やはり1人家庭で仕事もされており、送迎できないということで、送迎については苦慮しています。

市長

そういう実態です。コロナでなかなか実施できなかったところですが、食べ物に困っている人はもっと困ったと思います。コロナだからこそ、もっとやるべきだったというのが自分の中にある、いろいろなケースがあるにしても、子どもたちが安心して食事を取れる場所、常にそうした食べられる場所を作っておくことが大事だと思います。

それを運営する皆さんの意見も聞いてみたいと思います。困っていること、例えばお金が足りない、食材が入りにくい、そういうことが明確になれば、行政が企業にお願いをして、調達することもできるかもしれません。

お金についても、行政で用意し、それぞれの施設の皆様に出すことも考えられます。寄付も集まっていますので、そうしたものを回すことも可能だと思います。

窓口を一本化して、食材を回して、基準を設けて食堂を運営している皆さんにお届けすることができるとわかりやすいと思います。

極めて深刻な状態になっています。企業の社長の皆さんに会う機会があるので話をすると、寄付する、いくらぐらいすれば良いかとの話があります。伊那市の子ども食堂は運営がそれぞれの団体であります、わかりやすい形になるのが一番良いと思います。社協に窓口を一本化するのが一番ありがたいのですが、それは可能ですか。

伊那市社会福祉協議会

団体の皆さんに話を聞くと、それぞれの団体が寄付をいただいているようです。団体の皆さんがやるけれども、使い切れなくて他の団体に持っていったり、毎週やっているけれども、物が届く時にムラがあったり、調整が難しいということです。

私達が承知している団体は、去年から情報交換会を行っています。社協としてはそのようにコーディネートをしていくというところでは協力できると考えています。

市長

手間が足りなければ、職を失っているような1人親家庭などの方に入ってもらって、賃金払いながら、仕分けをしてもらうことについて、考えることは可能ですか。

伊那市社会福祉協議会

予算をいただいて実施しているところですが、マッチングが難しいかなと思います。寄付がバーンと来れば、とても忙しく、手が欲しいし、ぜひお願いしますとなりますが、あまり寄付がなくて、出勤いただいてもできる作業がない日もあります。仕分けをどうするかルール作りしていく必要があると思います。アイデアとして、仕事がない方に仕事をお願いすることは良いと思いますが、そのマッチングは結構難しいと思います。

市長

企業の皆さん、経営者協会、あるいは消防団など、様々なところに話をし、この時期にあの会社で従業員に提供を頼んで欲しい、次の時期にはこの会社というような形、あるいはニシザワやアピタなどと話をし、売れ残って処分するものがあれば寄附してもらう月を決める、そういう形で平準化していくことも可能かなと思っています。そのあたり、具体的に踏み込んで、旗振りをしてもらうと、行政もしっかり動く、そして、子どもたちにも届くと思います。

ぜひ私たちと一緒にやってもらいたいと思っています。

伊那市社会福祉協議会

私達は今まで、寄付を頼って進めてきたところですが、平準化していただくと大変ありがたい

と思います。行政の皆さんとも、ぜひ連携させていただきながらできたらと思います。

市長

教育委員の皆様からはどうですか。

教育委員

具体的な数字は想像を超えていると思います。この状況を見た時に、家庭の問題を考えると、子ども食堂の場所はどこにあることが効果的なのか、いっそう学校で食事を摂るようにしたらどうか、毎日、給食以外の食事を出してあげればそれで済むのか、学校に来られない家庭に誰がどう対応するかなど、多様な形で子ども食堂のあり方が問われてくるとすると、そこに対して寄付のように波があるものをどのようにコントロールしていくのか、一つ課題であると思います。

お金を出す人もいれば、物で出す人もいます。販売食品のフードロスの部分をどんな形で吸収できるのかなど、今日の会議だけで答えが出せるものではありませんが、本当の意味でこの実態を捉えて、そこに対して、具体的に何ができるか、広く議論していく必要があり、大きな問題提起であると感じました。

指導主事

学校現場から聞こえてくるのは、校長が朝晩食べてこない児童を毎朝校長室へ呼んで、勉強の前にパンを食べさせる、また、ある中学生には、勉強はしなくてもよい、給食だけは食べさせることを第一に考えている校長もいます。また、親元は飛び出し、家は嫌だということで施設へ入り、一時預かりとなったら、朝夜食事が出るので、ここにいたい、僕は家に帰らないという事で、これから先も施設でも生活する子どももいます。

コロナばかりではなく、家庭が家庭として機能してない家が増え続けています。そこに問題があり、子ども食堂も大変ありがたいのですが、もしかしたら本当に必要な子が来ていないかもしれない。学校が、本当に困っている子どもを洗い出して、そこへ手を差し伸べる必要があると感じています。

指導主事

レッド、イエロー、ブルーの話がありましたが、本当に手を入れなければならないレッド、イエローが見えてこない状況にあります。今日まで中学生の自習室を行い、この中では軽食を用意し、持ち帰って食べてもらっています。西箕輪公民館の担当でしたが、校長先生が見に来てくれる中で、本当に来て欲しい子が来ていないという話がありました。その辺をどのように救い上げていくか、学力保障と食事提供ということで教育長の発案で実施していますが、そのあたりどうして行こうかと思いながら聞かせていただきました。

教育長

中学生の自習室には、子ども相談室が把握している子どもたちが行けるように、相談室から情報提供しましょうと言ってくださり、相談室の担当から早めに情報を出してもらいました。募集期間に出しており、来られるように手立てしていますが、なお、そうした子どもたちが楽に出て来られるような場所になっているか、あるいはそういう場所にしていくのが私たちの仕事だろうと思い、ある意味厳しい自己評価をしています。そこの丁寧さが、やはり 1 人に確かに届くことにつながっていくのだろうと思います。

市長

中学生の自習室は、長期休暇中の学習支援として、東春近からトライしてだんだん広がってい

ます。これを全地区に広げて、さりげなく開いて、その辺の壁を意識しないで来られるような雰囲気を作り、食事も取れて、普通の子どもたちも一緒でも良いので、何とかそういう機会をたくさん作ってあげたいという思いがあります。

指導主事

会場に来た生徒は生徒会長もいて、俳句の枕詞や、短歌の区切れなどの高度な質問がありました。優秀なお子さんたちでした。

教育長職務代理者

私も顔を出してみたのですが、家庭的に食事に困っていないような子どもが多かったです。教える人はそんな多くなくても良いと思います。昨日は子どもと大人と同じくらの人数でした。送り迎えができないので来られないけれども、近くの公民館なので行けるなら、そういう形で広げられるといいかなと感じました。

教育委員

どこが一番わかるのか、例えば風呂にも入っていない、学校にも来られない、家の中がぐちゃぐちゃで、部屋の中に子どもだけにいるような状態であれば、無償でも届ける必要があると思います。親を指導しながら、市場価格で売られているもの半額以下ぐらいは負担いただくこともあるように思います。私たちが育った時代であれば、誰が来ても同じような状態でしたが、格差が広がっている中で子どもたちが自由に来るといって、考えてしまうことがあると思います。

市長

このテーマについては、社協と窓口を一本化して、そういうことができるかどうかについて、担当と話をし、またここで話をしたいと思います。

(3) その他

白鳥市長

その他、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

5 閉会

馬場教育次長

全体を通じて何かよろしいでしょうか。

それでは以上をもちまして第4回目の総合教育会議を終わりたいと思います。お疲れ様でした。